

「アメリカ言いなり」のはじまりは

神戸女学院大学文学部総合文化学科教授 石川 康宏

こんにちは、神戸女学院大学の石川康宏です。前回と前々回は、日本社会を「政治と経済」という角度から考えてみました。何か、新しい気づきはありましたか？ 今回は、話題を変えて日米関係についてです。日中関係、日韓関係など、大事な国際関係はたくさんあるのに、どうして日米関係をとりあげるのか。それはこれが、日本社会のしくみに、決定的ともいえる深い影響力をもつからです。

日米安保条約は新旧2つありました

沖縄には、たくさんの米軍基地があります。11月の沖縄県知事選挙は、名護市の辺野古に新しい基地をつくるかどうかを、最大の争点とします。このあたりのことは、きっと、みなさんよくご存じですね。選挙には応援にいくぞ、という人もあるかも知れませんが、米軍基地は、全国に130カ所ほどもあるんだ、なんてことを知っている方も少くないでしょう。

全国に130カ所って、考えてみるとすごい数ですね。全都道府県におよそ3つずつという割合です。

では、どうして日本にはこんなにたくさん米軍基地があるのでしょうか？ そうです。それには安保条約がかかわっています。日本とアメリカが約束した日米安保条約（条約というのは国と国との文書での約束のことです）には、こんな文章があるのです。

「日本国の安全に寄与し、並びに極東における国際の平和及び安全の維持に寄与するため、アメリカ合衆国は、その陸軍、空軍及び海軍が日本国において施設及び区域を使用することを許される」（第6条）。

「日本国の安全」や「極東」の平和のためなら、施設や土地はいくらでも提供しますよ、という約束を、日本は行っているわけです。ちなみに「極東」というのは、ヨーロッパを中心にした世界地図で、東の端っこにくるのが東アジア地域だったことからついた名です。地名にも世界の歴史があらわれるのですね。

「おいおい、アメリカに日本の安全を守る気なんてあるのかよ、というもっともな疑問は、ここではとりあえず脇において、話は先へ進みます。この条約は、いつ、どんな状況の下で結ばれたかを知っていますか？ はい、正解は、まず1960年です。そして安保闘争と呼ばれた国民の大反対運動を押し切って、岸信介首相（安倍首相のおじいさんです）が、無理やり成立させたものでした。安倍さんはこの「無理やり」を、おじいさんから学んでしまったようですね。

ところで、この条約には、その「前」があります。1960年に成立した安保条約は「新安保条約」とも呼ばれますが、それは、その前に「旧安保条約」があったからでした。

旧安保条約の発効は、1952年4月28日のことでしたが、これは、いったい何の日だったでしょう？ 正解は、日本が「独立」を果たした日です。そして日本はアメリカとの旧安保条約を、「独立」前の1951年9月8日に結んでいたのです。そこには、すでにこう書いてあります。

「平和条約及びこの条約の効力発生と同時に、アメリカ合衆国の陸軍、空軍及び海軍を日本国内及びその附近に配備する権利を、日本国は、許与し、アメリカ合衆国は、これを受諾する」（第1条）。

早くもこの時点で日本は、軍隊を日本国内に配備する権利をアメリカに「どうぞ」と渡してしま

っていたわけです。そうか、これが日本に米軍基地がたくさんつくられるきっかけだったのか…。

はじめりは日本全体の軍事占領でした

いえいえ、そうではないのです。旧安保条約にも、もっと「前」があったのです。それは一体なんでしょう？ 正解は米軍による日本の軍事占領でした。1945年に戦争に負けた日本は、連合国を代表した米軍によって占領されました。1945年8月から1952年4月まで、足かけ8年も続いたこの占領の下で、日本は「アメリカへの言いなり、をふくむ、今日の形をつくりあげたのです。

なるほど、占領のときにつくられた基地が、その後もね…。

はい、そうなんです。でも、ここには、もうちょっと複雑な話がありました。米軍は、最初は日本を平和・民主主義の国につくりかえようとし、次に「アメリカ言いなりの軍事大国、に育てようとする、時期によってまるで方向の違う占領政策をとったのです。

順番に、第一段階から見ていきましょう。

1945年8月14日、日本政府はポツダム宣言の受け入れを連合国側に通告しました。ポツダム宣言というのは、日本の降伏と戦後改革の方向を示した13カ条の宣言です。アメリカ、イギリス、中国の名前で発表されたものでした（日本の降伏前にソ連も署名）。次の8月15日に、そのことを昭和天皇が国民にラジオで伝えます。玉音放送というやつです。「しのびがたきを、しのび」というあれですね。この光景は、テレビで見たり、聞いたりしたことのある人も多いでしょう。

そして9月2日に、日本は連合国との降伏文書にサインします。日本では8月15日を終戦記念日としていますが（ホントは敗戦ですけど）、連合国側には9月2日を対日戦勝記念日とする国が多いのです。

さて、その途中の8月28日には、米軍が日本に上陸してきます。2日後の8月30日には、ダグラス・マッカーサー米陸軍元帥が、サングラスにコーンパイプという姿で、厚木（神奈川県）の海軍飛行場に降り立ちました。彼はすでに連合国軍最高司令官に就任しており、10月には、その総司令部（GHQ）を東京につくります。米軍による占

領の間、日本で1番エライ人は、天皇でも、首相でもなく、マッカーサー（1951年4月にトルーマン大統領によって更迭され、帰国します）となったのです。

平和日本をめざしたポツダム宣言

ポツダム宣言には、次のような文章がありました。

「日本国民を欺いて世界征服に乗り出す過ちを犯させた勢力を除去する」（第6条）。

「捕虜虐待を含む一切の戦争犯罪人は処罰される」「言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立される」（第10条）。

「日本国国民が自由に表明した意志による平和的傾向の責任ある政府の樹立を求める」（第12条）。

ようするに、日本を、再び侵略戦争をすることのない平和な国につくりかえようということです。これの推進が、GHQの中心的な仕事となりました。

マッカーサーの行動は、なかなかすばやいですよ。1945年10月には、幣原首相に「5大改革指令」を伝えています（当時の日本政府の役割は、GHQによる占領政策の下請けが基本でした）。

「5大改革」の内容は、①女性にも選挙権を与えて解放する、②労働組合の結成を促進する、③民主主義の学校教育を進める、④秘密警察を廃止し、「政治犯」を釈放する、⑤少数者の横暴がまかり通った経済の仕組みを民主化する、というものでした。

さらに1947年5月3日には、日本国憲法が施行されます。1946年2月にGHQがつくった憲法の下書きには、主権が国民にあることや、戦争を放棄することなど、「日本国憲法」の骨組みがほとんど完全な形でふくまれていました。

日米が、その後もこの道を進んでいけば、今日の日本にたくさんの米軍基地が残されることはなかったでしょう。ところが、そこに…。

字数が尽きてしまいました。残念ですね。いかがですか？ 日米関係には知っておくべき大事な歴史がたくさんあるでしょ？ これでも、話はまだ半分にもなっていません。では、つづきをお楽しみに。